

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400252		
法人名	社会福祉法人 千里会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	〒802-0062 福岡県北九州市小倉北区片野4丁目23番2号 Tel 093-932-5160		
自己評価作成日	平成29年08月10日	評価結果確定日	平成29年09月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294
訪問調査日	平成29年09月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養・ショートステイ・小規模多機能の複合型施設の利点を活かし、各々の利用目的・意向に応じたサービス事業所への利用変更など、ニーズに合わせ柔軟な対応をしております。また、グループホームでの暮らしが安心して継続でき、身体機能の変化にも柔軟な対応を行い不安をなく生活が維持できるよう職員間で情報の共有を密に図り寄り添う支援を行っております。個々の能力に応じた役割づくりをし、日々の生活リズムを大切にしております。往診医・訪問歯科・訪問看護・服薬指導等専門分野との連携し住み慣れた環境で生活を継続できるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ひだまり」は、小倉北区の街中に位置する複合型福祉施設の3階にある2ユニット(定員18名)のグループホームである。同一建物内にある特養、ショートステイ、小規模多機能と連携し、利用者の心身の状態に合わせ、必要な介護サービスを提供できる多様性の支援が行われている。定期往診可能な医療機関(3ヶ所)と提携し、必要に応じて訪問看護を採り入れ、利用者が安心して医療が受けられる体制を整えている。併設事業所と合同の運営推進会議では、ホームの取り組みや課題について活発な意見交換が行われ、地域からの情報提供を受けて、行事に参加する等、地道な取り組みの積み重ねにより、地域の方の理解を得て、信頼関係を築いている。1階の地域交流サロンを開放し、定期的に「ひだまりマルシェ(市場)」を開催する等、法人理念「人と地域力を育みつなぐ、ひだまりの家」の実現を目標に、利用者や家族、地域の方のよりどころとなる事業所を目指し、努力を続けている、「グループホーム ひだまり」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と地域力を育みつなぐ、ひだまりの家」という理念かを基に地域に根を張り地域の方が気軽の訪れる事が出来る様に努めています。	慣れ親しんだ自分のまちで、いつまでも、出来る限り暮らしたいという願いに寄り添い、利用者や家族、地域住民の拠り所となる複合型施設を目指して作られた法人理念を掲げている。見やすい場所に理念を掲げ、目にすることで理念の共有に努めている。	法人理念を基に、職員間で話し合い、独自の目標や職員の心得を作成し、定期的に確認や振り返りを行い、職員間の意識の統一を図り、職員が意欲的に働ける取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加を心がけています。 施設でのイベント時はボランティアの方々のご協力くださいます。	運営推進会議の参加委員から地域の情報を得て、複合型施設全体の取り組みとして、地域の祭りの準備を手伝ったり、町内の防災訓練にも参加している。また、1階のエントランスで「片野ひだまりマルシェ」を開催したり、地域の方が立ち寄れるよう、地域交流スペースを開放する等、開設5年目を迎え、少しずつ地域との交流を広げている。	1階のスペースや建物全体での地域交流が主になっているため、グループホームにも外部から人が訪れたり、職員が地域に出て行く等、積極的な交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設1階は「地域交流スペース」を設け、地域の方々が訪問しやすい雰囲気づくりをしております。また、施設の見学は随時受け付けております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」は二月ごとに開催しております。利用状況・活動状況の報告、事故報告・ヒヤリハットの報告等を行っております。参加下さる地域の方々から意見・要望・質問を頂き活発な会議になっております。また「運営推進会議」での内容は職員へも周知しております。	併設特養とショートステイ、グループホーム、小規模多機能合同で、2ヶ月毎に開催し、多くの地域代表や地域包括支援センター職員の参加を得ている。各事業所の現況や行事報告を行い、課題について意見、アドバイスを受けている。地域の情報も寄せられ、意見や情報をサービスの向上に活かしている。	地域の問題、介護に関する相談に柔軟に対応出来る、複合型施設ならではの強みを活かし、運営推進会議の参加委員の協力を得て、地域と繋がり、地域力を育くむ取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「運営推進会議」に地域包センターの職員様にも参加していただき、意見・情報交換に努めております。	管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政担当窓口へ報告し、疑問点、困難事例等を相談して連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを伝え、意見や情報提供を受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての勉強会を行い、身体拘束への理解を深めております。 安全確保の為、エレベーターの利用制限は行っております。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、職員会議や勉強会で学ぶ機会を設け、申し送り時や業務中に繰り返し確認し、意識づけを行う事で、身体拘束への理解を深めている。「座っとなつて」「待っとなつて」等、スピーチロックを行わないよう、職員間で気をつけて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必須重要研修と位置付け、研修を行い、「虐待」とはとまず学ぶ事・理解する事と指導しております。虐待につながるような事を些細な事も見逃さないよう研修し理解を深めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度・権利擁護等を利用されている方が複数名おられます。「尊厳を守る」ため個々の必要性を鑑み職員間で情報共有を行い支援しております。	日常生活自立支援事業を活用している利用者が5名おられ、業務で関わる管理者は、制度について理解している。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には、制度について説明し、申請機関に繋ぐ体制を整えている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業は、今後、益々必要となる制度であることから、外部研修、内部での勉強会等で、学ぶ機会を設け、制度に関する理解を深める事が望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学・面談、利用の相談、申込み、利用開始に当たり、疑問・要望を伺う時間を十分にとり納得頂けるようにしております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への相談も行えるよう説明しております。外部相談機関のポスターの掲示も行っております。「運営推進会議」においてもご家族様からのご意見・苦情を報告しております。	日常生活の中で、職員は利用者に声掛けしながら、意見や要望の把握に努めている。家族の面会時に、利用者の状況を報告し、家族の意見や要望を聴き取り、介護計画やホーム運営に反映出来るように取り組んでいる。また、遠方であったり、面会が難しい家族とは、電話やメールでやり取りして、意見、要望を聴いている。	家族が参加出来るレクリエーションを企画し、ホームと家族、家族同士の交流を図り、思いを話し合い、共に利用者を支える関係作りを期待したい。また、定期的にホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりを家族に伝え、安心と信頼を得る取り組みが望まれる。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回 理事長も含めた施設全体の運営会議を行っております。グループホームでの職員ミーティングを毎月行い活発な意見交換を行えるようしております。	毎月、ユニット会議と2ユニット合同の会議、施設全体の会議を開催している。各ユニットの会議では、利用者に関しての事を主に話し合い、職員間で情報を共有し、ケアの統一を図っている。施設全体の会議は、法人からの報告事項、施設全体で行う行事についての話し合い、勉強会等が行われ、全職員の意識の統一と質の向上に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業しない環境整備を行っております。スキルアップの為、外部研修を推奨し専門性の高いケアが行えるよう整備しております。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に特段の制限は設けておりません。「介護」への理解があり、福祉の仕事をやりがいのある職務と認識できる事を重要と考えます。	管理者は常日頃から職員に、「利用者に対して、私達がしなければならない事を確実に行う事」の大切さを伝え、職員一人ひとりが意識を高く持てるよう取り組んでいる。職員の処遇については、職員の定着を目指し、法人全体で改善に向けて検討を始めている。職員の募集、採用にあたっては、介護に対しての考え方を重視している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習の機会を設け、人権を尊重できる教育を行っております。	管理者が外部の人権研修を受講し、会議の時に職員に伝える形で、人権教育を行っている。オムツ交換時は居室のドアを閉める基本的な事から再度確認し、言葉遣いや声の大きさにも注意して、利用者の人権を尊重した介護サービスの提供に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修・外部研修に参加できる勤務体制を確保し、各々が積極的に研修する機会を持っています。 職員のスキルアップにつながる研修計画も作成しケアの向上に努めております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で交流する機会を持ち、相互訪問する活動を推奨しております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活歴等、ご本人、ご家族、他介護関係者と十分なアセスメントを行っております。ご本人の意向・要望を理解できるようできるだけ多くに情報が得られよう努めております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず見学をしていただきます。困っていること、相談したい事を話やすい環境で伺えるようにしております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向を十分考慮し「入居」の提案を行う事が望ましいとしても満床で待機して頂かなければならない場合、小規模多機能等の利用も検討して頂ける提案を行っております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身でできる事は出来る限り自身の力で行える環境を整備します。又家事(洗濯物量等)を協働で行います。自己決定の場面作りも構築しております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係に配慮し支援しております。ご家族様にも参加して頂く行事も立案し参加をお願いしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内は使いなれた筆筒を配置したり、大切な写真等を飾り、自宅・家族との記憶の維持を図っております。	家族や親戚、友人等、馴染みの方の面会を歓迎し、職員は笑顔で挨拶を心掛け、訪問しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。家族の協力で、理・美容院へ出かけたり、病院受診の帰りに外食をして帰ってくる事もあり、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係や関わりが、ホーム入居で途切れないよう、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の特性を鑑み、座席等の配置を行っております。又変化を嫌う方もおられますのでその配慮も忘れません。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、困りごと、心配ごとがあればご相談下さるよう説明しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしく暮らす事が出来る様支援しております。自身での意向表出が困難な場合でも、表情等を観察し、思いを把握できるよう支援しております。	職員は、利用者との信頼関係を築く中で、利用者の思いや意向、心配な事の把握に努め、職員間で気づきを話し合い、情報を共有している。意向表出が困難な利用者については、家族に尋ねたり、日頃の暮らしの中で、職員が寄り添い声掛けし、その表情や仕草から、利用者の思いを察知して、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等、ご家族様へ伺ったり、関係介護職等へ伺ったりし、多方面から情報収集を行っております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を、施設の都合では行わず、ご本人が決定できるよう努めております。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、必要なケアの状況把握に努めております。ご本人の意向に沿う介護計画の作成を心掛けております。	利用者、家族の意向を確認し、ユニット会議の中で、職員の気づきや意見を出し合い、計画作成担当者がまとめて、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。実施モニタリング表を使ってモニタリングを行い、状況変化があった場合は、家族、主治医を始めとする関係者で話し合い、現状に即した介護計画を、その都度作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の記録は適宜行っています。職員間の情報共有の為、日々の申し送りの徹底し、個々の状況が把握できるようにしております。又介護計画の見直しを適宜行っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、柔軟な対応をしております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の理解は出来ていますが、活用は出来ておりません。ご利用者様が豊かに暮らせる支援をまいります。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診医、かかりつけ医への受診はご本人・ご家族様の希望・要望に応じ対応しております。施設での生活状況等随時かかりつけ医への情報提供を行い適切な医療を受けて頂いております。	契約時に、利用者や家族と話し合い、希望を聞いて主治医を決めている。ほとんどの方が、ホームの協力医療機関による訪問診療を利用しているが、家族対応で入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいて、それぞれの主治医と密に連絡を取りながら情報の共有に努めている。必要に応じて訪問看護ステーションと連携し、安心の医療体制を整えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと適宜連絡を行い、連携を取り医療的な援助を受けております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際、かかりつけ医、訪問看護員へ情報提供を依頼し、ご利用者様が安心して治療を受けて頂ける様支援しております。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの指針に基づき、施設でできる事の説明を行いご理解を頂いております。職員間でも十分話し合い、方向性・方針の情報共有を行っております。	終末期ケアの指針を基に説明を行っている。「意思を伝えるチャート」の記入をお願いし、事前に、利用者、家族の希望の把握に努めている。現在まで看取りの経験はないが、研修等で職員のスキルアップを図り、訪問看護、主治医と連携しながら、利用者や家族の希望に沿った終末期の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの周知・徹底を図っておりますが、訓練不足と考えます。定期的な訓練・研修を実施して参ります。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜の想定での避難誘導訓練を行っております。又町内での防災訓練にも参加しております。	全館で年2回、消防署の参加を得て、昼夜を想定した避難誘導訓練を実施している。利用者を安全に避難場所に誘導するために、同じ建物内の他部署の職員との協力体制を確認している。防火ドアの外やバルコニーを一時避難場所として位置づけ、利用者が待機して、消防車の到着を待つように指導されている。非常食は厨房で一括して準備している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守る対応を心掛けております。各々の利用者様への対応方法を適宜、情報交換し言葉かけ等適切な対応をしております。	利用者の尊厳を守ることが全ての基本であると考え、特に、排泄や入浴の場面では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を心掛けている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務について、法人全体で、情報漏洩防止の徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面を作りできる限り意志決定を尊重できるようにしております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースで過ごせるよう支援しております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類の準備等ご家族様へもご協力いただいております。又定期的な訪問理美容においてご自身の望む「髪染め」「パーマ」のご利用も頂いております。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、配膳等行っています。嫌いなメニュー等の周知を行い、食事を楽しんでいただいております。	法人厨房で作る、委託業者による食事を提供している。各部署持ち回りで検食を行い、栄養委員会で意見や要望を出して美味しい食事の提供を目指して検討を重ねている。そうめん流しをして季節を感じてもらったり、ホットケーキやゼリー、食パンを切っかかりんとう風のおやつを手作りする等、食べる事が少しでも楽しめるよう工夫している。	利用者の一番の楽しみである食事を大切に考え、味、固さ、彩り、盛り付け等、利用者に合わせた形態での提供に細かく配慮し、利用者の満足と喜びに繋がる食事の提供を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量の確認を随時行って記録しております。ご利用者様の嗜好・習慣も純分理解し、補食又は嗜好品での栄養摂取をしていたいております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解、口腔ケアの支援を行っております。夫々の状態に応じた口腔ケアの方法を行っております。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により「排泄パターン」を把握し支援しております。	浴室のトイレを入れると、ユニット毎に4ヶ所トイレが設置されている。職員は、利用者の排泄パターンを把握し、表情や仕草を観察しながら、声掛けや誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間も、利用者の様子を見ながらトイレ誘導を行い、オムツ仕様の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取を促し、体操等運動する事を提案しております。個別には腹部マッサージを行う事もあります。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定は行っておりますが、ご利用者様の希望を考慮し支援しております。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して支援している。基本的には週2回の支援であるが、入浴したい方は週3、4回入ってもらっている。入浴の無い日は清拭を行い、清潔保持に努めている。介護度の高い利用者は、建物2階にある特浴を利用する事もでき、安心して安全に入浴ができるよう取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた寝具の準備を行っております。使いなれた寝具をご利用の方もおられます。又それまでの生活習慣・体調を考慮し休息できるようにしております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を受けております。状態変化に伴い処方に変更がある場合は職員間で情報共有し、服薬後、状態観察・報告をしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量・おしぼり準備等役割分担しております。喜びを感じる楽しみを見いだせておりません。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣のスーパーの閉鎖・ご利用者様の重度化に伴い、外出機会が減っております。少しでも季節を感じて頂きたく「ドライブ」「公園までの散歩」を行っております。	「行きたい所はないですか？」「買いたい物はないですか？」と、利用者に声掛けしているが、「ない」と、返事が返ってくることが多い。そんな中でも、外出レクリエーションを企画し、ドライブに出かけたり、花見に出かける等、少しでも戸外へ出かけられるよう取り組んでいる。また、家族と一緒に外出を楽しんでいる利用者もいる。	職員配置を工夫し、個別や少人数での外出や外食、散歩など、日常的に戸外に出かけられるような取り組みを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避・ご家族の意向もあり金銭は事業所管理としております。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用の希望があれば電話をかけて頂いてます。手紙等は支援しております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調温度調整は適宜行っております。季節を感じて頂けるよう季節毎の花等を折り紙で飾っております。又、季節の風を感じて頂けるようテラスを活用しております。	職員の力を結集した、環境を豊かにする取り組みにより、殺風景だった共用空間が、季節感や温かみのある空間になっている。3階に位置する事から眺めが良く、開放的である。日曜日には、リビングのソファの配置を変えて、皆でのご自慢の番組を観る事が楽しみであり、リビングが居心地の良い共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じ、ソファを移動し空間を変え過ぎやすい環境作りをしております。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の慣れ親しんだ家具等持ち込み頂き、過ごしてきた環境・居心地の良い自室作りをいただいております。	利用者の馴染みの家具や冷蔵庫等の電気製品、身の回りの物や大切な物を持って来てもらい、配置にこだわる利用者の思いや安全面に配慮しながら、利用者にとって安心して穏やかに暮らせる場所作りに取り組んでいる。職員がこまめに換気や清掃を行い、利用者が気落ち良く過ごせるよう支援に努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の好みに応じた住環境を作るようにしております。		